

2018年10月09日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【チャート分析は、科学ではなく、経験則】

FX取引を行う際に、チャートを見ない人は、非常に稀でしょう。

チャートは過去の値動きの記録です。

ただ単に値動きを数字の羅列で表したのでは、その変化がわかりづらいので、グラフ化して可視化したものがチャートで、それ以上の意味はありません。

なぜ多くのマーケット参加者たちがチャートを参考にするのでしょうか？

それは、外国為替相場には、他に手がかりとなるものがないからです。

例えば、株式取引であれば、証券取引所から出来高など、取引の手がかりとなるさまざまなデータが、ほぼリアルタイムに公表されます。

ところが、外国為替相場で唯一、リアルタイムでわかるのは値段だけです。

そのためチャートを見るしかないのです。

+++++

では、
「チャートは正しいのか、正しくないのか？」

誰もが知りたいことです。

「過去の値動きを正しく表しているのか？」
という質問には「正しい」と即答できます。

しかし、
「チャート分析から導き出される『売り買いのシグナル』は正しいのか？」
という疑問に対しては、
「100%正しいとは言えない」
と答えることとなります。

+++++

損切りについて考えてみましょう。

「買ったポジションをどこで売って損切るのか？」

一番基本的なポイントは、直近安値を割り込んだところでしょう。

そこで切らないのなら、一連のスパンの中で最安値を割り込んだところが損切りのポイントです。

売ったポジションを買い戻すのであれば、直近高値を超えたところになります。

そうでなければ一連のスパンの中の最高値を上を抜けたところです。

この損切りポイントが唯一無二というのではなく、そうする人が非常に多いということです。

チャートを見ながらの最高値最安値を意識した取引をしている人が、非常に多いとしたら、そこにストップ・ロス・オーダーが集中していることも非常に多い訳で、そこをブレイクすると相場が加速しやすくなるのも道理です。

だから、チャートに現れるシグナルは 100%正しいわけではないけれど、取引の手がかりになるという考え方は、リーズナブルです。

ただし、チャートを取引の手がかりにする上で注意すべきは、どのくらいの量（取引高）が出てくるのかがわからないということです。

大量のポジションがあれば値動きは大きくなるでしょう。

少量では予想したような動きにならないかも知れません。

とはいえボックス相場の期間が長ければ、その間に溜まったポジションが大きくなっていくだろう、と想像することはできます。

+++++

チャート分析による答えは、科学による答えではなく、経験則から導き出される答えです。

その答えはかなり正しいと思っていますが、完全に正しいとは思っていません。

実際にシグナルに裏切られたこともあるし、信じすぎると身を滅ぼすと考えています。

チャートは、8割がた正しい、と考えますが、必ず、2割程度は外れます。

「この 2割程度外れるのが、いつなのか？」が分かれば良いのですが、残念ながら、「いつ外れるのか？」は、絶対に分からないのです。

「いつチャート分析が外れるのか？」が分かれば、チャートは 100%当たることになります。

それでは、自家撞着していますから、残念ながら、「いつ外れるのか？」は、絶対に分からないのです。

+++++

(2018年10月09日東京時間14:10記述)